

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900150
法人名	医療法人 康仁会
事業所名	グループホーム さわらび
所在地	愛媛県四国中央市三島金子 2-2079-8
自己評価作成日	平成 24 年 7 月 14 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 8 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体病院の敷地内にグループホームがあるため、24時間体制でのサポートが可能で、母体病院より、定期的に担当看護師の健康チェック、体調不良時は、すぐ連絡を取れる体制を整えている。その他にも、母体病院の外来リハビリにも、週三回通っている。
同系列の老人保健施設・ケアハウス・通所リハビリとも連携を取り、イベント等にも参加している。
四国中央市で最初にできたグループホームであり、その経験を活かしたケアに努め、入居者が活気があり、笑顔の絶えない生活を支援できるように、職員一同日々精進しています。
さわらびの職員は皆まじめで、明るく、向上心があり、入居者の事を一番に考えられる人間ばかりです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人の医療機関に隣接しており、医療面の安心感が高い。利用者全員が週3回のリハビリを受けて、専門スタッフによる健康面の見守りや早めの対応が行われているため、平均年齢が80歳代後半であるにもかかわらず、介護度は低い。事業所の職員は病院のスタッフとお互いの専門性を活かしながら連携し、利用者が「楽しく笑顔で」生活できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム さわらび
(ユニット名)	_____
記入者(管理者)	_____
氏名	尾崎 慎也
評価完了日	平成 24 年 7 月 14 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「楽しく笑顔で」を理念に職員一同一致団結し、入居者の支援に努めている。	
			(外部評価) 「楽しく笑顔で」の理念は、2年前に法人全体の理念とは別に、利用者が楽しく笑顔で生活できることを意識して作られたものである。利用者の生活の質向上に直結できる言葉で、職員も絶えず意識しながらケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 半年に1回、地域の消防署・消防団、自治会長、民生委員の方々と共に、消防訓練を行っている。他にも、運営推進会議にも、参加して頂いている。	
			(外部評価) 母体の医療機関や関連事業所が隣接し、法人全体で地域との交流がある。介護保険制度が始まる前から運営しており、地域にあることが当たり前のように認識されている。1ユニットで普通の家族のような雰囲気があり、近所とは窓ごしにでも話し合える関係にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などに参加頂き、入居者のイベント連絡や、事故報告等行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 地域の方の意見や提案の内容を記録・検討し、サービ ス向上を行っている。その他、火災訓練を地域の方と 一緒に行ったり、ホーム内のヒヤリ・ハット報告など 行っている。	
			(外部評価) 議題についての意見交換や報告内容などから、管理者 の「きちりとした会議にしたい」という熱意が伝 わってくる。開催にあたっては、時間をかけて準備す るなど充実させるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に地域包括センター職員の方が参加し ホーム内の様子やヒヤリハットなど報告している。 その他、月1回ふれあい相談委員の方が訪問して頂 き、意見交換など相談してもらっている。	
			(外部評価) 母体法人は地域医療を始め福祉施設や関連事業を運営 しており、市は事業所を地域の社会福祉資源として位 置付けている。市担当者とは日頃から密接な協力関係 が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関にブザーを使用するなど工夫をしている。その 他、身体拘束の勉強会も行い身体拘束の無いように努 めている。身体拘束排除マニュアルも作成している。	
			(外部評価) 職員は、身体拘束をしないケアを正しく理解し実践に 繋げている。利用者は精神的な制約を感じることもな く、自由に過ごしている。利用者の不意な外出の見守 りは、隣接する母体法人の施設や近隣の顔見知りの方 に協力を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を行っている。全職員が理解できている。 家族・本人に対しては、事前調査時に十分観察を行う。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 定期的に勉強会を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 介護保険改正時には、重要事項説明書を更新し、各家族に説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時に「苦情受付も窓口」の資料を渡し説明を行い、玄関スペースにも、説明の要項を貼っている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者や家族の状況に合わせて、面会や電話連絡、催し物の案内など、意見や要望をだせる機会をできるだけ多く作るよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回、定期的に職員全員参加しスタッフ会を開催し、入居者・業務内容の意見交換を行っている。その他管理者も職員と同じ勤務体制をとっており、常に話しやすい関係づくりができています。 (外部評価) 管理者は、親しみやすい人柄で福祉職としてのキャリアもあり、日頃から職員の気持ちを汲み上げて意思疎通が上手くいっている。管理者は、職員から意見や提案を聞く機会を設けて、法人代表者とのつなぎの役割も果たしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員は、半年に1度自己評価し代表者が評価している。管理者は、職員からの意見等を聞き必要であれば代表者に相談を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員は、半年に1度自己評価し代表者が評価している。管理者は、職員からの意見等を聞き必要であれば代表者に相談を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市内、グループホーム交流会にも積極的に参加している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に、本人から話しを聞き、入居にあたり本人が不安に思っている事や要望など聞き、ケアプランに取り入れ本人が安心して生活できる様に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に、入居にあたって不安な点や要求など聞き、ケアプランに取り入れている。家族の方が安心して入居できる様に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居時に本人・家族と話しをし、必要に応じた対応を行う。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者一人ひとり役割を持ってもらい、入居者・職員の関係ではなく家族的な関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、会話のスペースを提供したり、月1回「本人さん新聞」を作成し本人の日頃の様子など記事にし家族に送付している。その他、家族が希望する生活を聞き、ケアプランを作成している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居前に本人の生活歴・以前していた仕事・得意な事を聞き本人らしい生活ができる様に努めている。その他、家族・知人の協力の元、外出・外泊の援助を行い人との関わりを大切にしている。 (外部評価) 利用者の外出は、現在の職員体制では回数に制限があるため、家族等の協力を得ながら馴染みの関係が途切れないよう支援している。母体病院に、受診やリハビリ、売店への買い物等で繰り返し出向くことで、新たな馴染みの人や場を作れるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士、出来る人は出来ない人を支え合う人間関係が構築している。新しい入居者が入居の際も自己紹介など行い、人間関係を構築し、入居者・職員共に協力し合っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設等に移る時は、ホームでの生活が解る記録を渡し以後の生活をしやすい様に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプラン作成時、本人の意向をと入れている。その他、日々の生活の中でも本人と寄り添い本人のできる事、したい事を発見でき喜びを共有できる様、努めている。	
			(外部評価) 職員は、理念の「楽しく笑顔で」を実践するためには、利用者自身を理解することが重要であるとの共通認識があり、生活歴や聞き取りなどで、利用者の希望や意向を把握するよう力を入れている。申し送りノートや引き継ぎ時等で、全ての職員が情報共有している。職員の入れ替わりも少なく、長期の関わりで利用者への理解を深めている。	開設から12年が経過しているので、改めて職員一人ひとりが把握している利用者像を書きだし、職員全員で確認し合う取り組みを期待したい。口頭ではなく、文字により情報共有することが望ましく、利用者の新たな側面の発見に繋がりケアの質の向上も期待できる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前に本人・家族に生活歴等を聞き、情報も職員同士共有でき同じ目標に向かったケアに努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活の中で、一人ひとりの生活ペースを観察し個々に、できる事・やりたい事を発見し、カンファレンス等で話し合い統一したケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプラン作成時には、本人・家族の意向を取り入れカンファレンスで職員の意見も取り入れ作成をし、本人主体のプラン作成に努めている。	
			(外部評価) 利用者毎に担当職員がおり、利用者や家族の聞き取りと日々の気づきを踏まえて、目標を立てて介護計画の作成をしている。ケア会議は月1回行われ、職員全員で話し合い計画を見直している。1ユニットのため管理者も利用者一人ひとりに目が届きやすく、職員にアドバイスをしながらより良い計画となるよう努めている。	モニタリングや介護計画の見直しをより充実させるために、介護目標の記録方法について、達成度がわかるように数字などでデータベース化することに期待したい。職員のやり甲斐やモチベーションアップにも繋がると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録の中で、本人の訴えや様子・プラン内容等記録し出勤していない職員には、記録以外に申し送りで情報を共有している。その他、重要な事は職員の連絡ノートでも共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入居者の希望や職員の提案等、季節感のある外出・外食をしたり楽しみのある生活に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 市が主催している音楽会や美術展に参加したり、地域の方・消防団・消防署と一緒に消防訓練を行った活動をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体病院の受診の他、本人・家族が希望した場合、他 の病院の受診は職員の支援または、家族の協力のもと 行い素早く対応できるように対応している。	
			(外部評価) 母体医院は事業所に隣接し、リハビリにも力を入れて いることなどから、利用者全員がかかりつけ医として いる。特に週三回のリハビリは、利用者の体調の変化 を細やかに見守ることができ、家族等に安心感があ る。専門性の高い受診科目については、利用者の希望 に沿って、母体医院の看護師の協力の下、適切に受診 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 母体病院の看護師と医療連携を行っている。夜間、入 居者が体調不良があれば担当看護師に連絡をし指示の もと支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体病院に入院の際には医師・看護師と連携を取り情 報交換を行っている。その他の病院に入院時には、家 族・病院に定期的に連絡を取って対応している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの説明は入居前の契約時に行っている。看取り 開始にあたっては、医師・看護師に説明を受け職員 は、情報を共有しケアに努める。定期的に家族・医師 に今後の方針の相談を行う。	
			(外部評価) 現在、介護度の低い利用者が多いが、年齢的には意識 する時期でもあり、重度化や終末期のあり方や対応に ついて、利用者や家族に説明するよう取り組んでい る。隣が母体病院であるため、医療的ケアの連携が取 れる体制がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変・事故発生時には、母体病院と連携を取っており、素早く対応できる。マニュアルも作成しており、全職員が理解でき対応している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) スプリンクラーも設置しており、地域の方・地域の消防団・消防署の方も交え年2回消防訓練を行っている。その他、災害時にすぐ持っていける災害用バック・記録を持ち出す事になっている。 (外部評価) 災害対策は法人全体で取り組んでいる。隣接している関係施設を合わせると避難弱者は100名を超えるため、地域の防災機関とも連携した避難訓練を行なっている。事業所は、地域の防災拠点としての役割も担っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者家族にプライバシー確保のため書面にサインをもらっている。書類記載も入居者の名前もイニシャルで記載するなど考慮している。 (外部評価) 職員と利用者は家族のような親しい雰囲気であるが、職員は常に利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーに配慮したケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の中で、一人ひとりの表情の変化の観察や訴えの傾聴に努めている。職員も申し送り等で情報を共有しその人に合ったケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者の希望があれば、近くのスーパーや同敷地内病院の売店に買い物に出かけたり、ドライブや散歩など臨機応変に行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の希望に添って化粧・ヘアカラー等の援助を行っている。散髪・パーマは家族が馴染みのパーマ屋に連れて行ったり、本人が希望するオシャレを楽しめる様に努めている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 基本的に昼・夜食は同敷地内の病院から食事を貰っている。盛り付け・食事の準備は入居者・職員で行っている。朝食・イベント時には、入居者・職員で作っている。片付けは、入居者の方が中心に行い、職員は手伝い程度行っている。	
			(外部評価) 食事は、食材の選択からメニュー、調理まで法人が行っており、栄養管理面で安心感がある。職員は配膳だけを行って、利用者に関わることに専念している。利用者は持てる力を活かして、片付けなどそれぞれの役割を担っている。利用者は職員との会話を楽しみながら、食事の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 敷地内病院の管理栄養士の元、その人に合った食事を提供している。水分補給を観察し、毎日記録している。その他、皆で楽しく食事できる様に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアの声掛けを行っており、自力で行えない方には、介助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ほとんどの入居者が自立しており、個人の自尊心に配慮している。その他、転倒の危険性のある方には、夜間ポータブルトイレを使用している。	
			(外部評価) 排泄の自立している利用者が比較的多いが、プライバシーに配慮しながら支援している。一人ひとりの力や排泄パターン、習慣などを把握して、職員同士で連携しながら見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘対策として、水分補給・食事に工夫している。 (乳製品など) 本人の排泄パターンに合わせ医師と相談し、調整剤等で調整している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本、夜勤時以外、入浴は自由である。本人の希望に添える様に努めている。	
			(外部評価) 利用者の希望に沿って、入浴日を決めるようにしている。殆んどの利用者が自立しており、プライバシーに配慮した見守りをしながら入浴支援している。職員は、利用者が楽しく会話できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 自由に居室・食堂と本人のペースに合った生活を援助に努めている。職員は、入居者の行動に注意し本人らしく生活できる様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診等で薬の変更がある際には、受診記録に記入・申し送り・薬記載版で確認し全職員が周知できるように工夫している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居の際に本人の趣味・特技・以前の仕事など聞き、日々の生活観察を行い、本人と相談しながら役割に励んでもらえる様に努めている。入居者の意見を聞き、買い物、外出行事を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 定期的に外出を行っている。近隣に商店がない為、母体の病院の売店へ行ったり、希望に合わせ車でスーパーに買い物に出掛けたり季節の花を見に行ったり、外食に出掛けたり、臨機応変に対応できるように努めている。 (外部評価) 母体法人の敷地内に事業所が立地しているため、敷地内での散歩や他施設への訪問など日常的な外出支援ができています。外出の主たる目的を利用者のリフレッシュと捉えており、外気浴も活用しながら、外出の機会を増やすよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で金銭を管理されている方も数名あり。スーパーでの買い物時、会計もできる方は、自分で行っている。その他、預かり金はその人に応じ家族と相談し預かっている。預かり帳もあり管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があった時、ホームの電話を貸し、電話を行える様、支援している。その他、希望者は月に数回、親族に手紙を書いて送付している。職員も支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間には畳のスペースがあり冬にはコタツをしている。居間のスペースが狭く、くつろぐスペースが少ないが、玄関前には、テラスがあり日向ごっこや天気の良い日には外で食事を行ったりと心地の良い季節を感じられる様に努めている。</p> <p>(外部評価) 主な共用空間であるダイニングスペースがそれほど広くないため、2階の廊下の談話スペースをゆっくりと寛げる場所としている。玄関横の広めのテラスは、利用者が居心地よく過ごせる空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居間には、スペース的な問題がありスペース確保は難しいがローカに椅子を置いたり、2階ロビーにテレビを設置したり、玄関先にテラスを設けるなど工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居前に本人の馴染みな物を持ってきてもらう様に説明をしている。</p> <p>(外部評価) 利用者それぞれが、馴染みの物を持ち込んで自由に配置し、個性のある居室になっている。築13年目の建物であるが、清掃が行き届きどの居室も清潔感がある。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 入居者一人ひとりが安全に生活できる様に工夫している。夜間歩行不安定な方にはポータブルトイレを設置したり、自分の居室がわかりやすくする為、居室ドアに名前やマークを付けたりと自立につながる様に努めている。</p>	